

a 学校教育目標	自らをきりひらく たくましい児童の育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校								
評価計画			自己評価			改善方策			学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値 h 達成値	i 2月 h 達成値	j 達成度	k 評価	l 結果と課題の分析	m 改善方策	n 評価 イ ロ ハ	コメント	
確かな学力等の育成を図る。	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。 基礎的・基本的な知識及び技能をはじめ、学ぶ意欲や思考力、表現力等の確かな学力の育成を図る。	○R-PDCAに基づく学習指導を徹底する。 ・「課題改善・学力向上シート」に基づく指導の継続・個に応じた指導の充実・学力の定着・向上に係る状況シートへの記入・取組)	・学力調査の全国・市平均(100%)に対する、全学年児童の到達度の割合(12月実施・1月分析) ・各教科(国語科・算数科・理科)学期末までのテストで全国平均以上を達成した児童の割合	100% 85% 90%	— 88.9% 93.8%	— 104.6% 104.2%	A	・学力調査は12月に実施する。 ・学期末テストにおける目標達成の児童は、国語科90%、算数科84.4%・理科で91.7%であった。課題による算数科の「思考・判断・表現」については、国語科とあわせて文章問題の読み取りの力を付けていく必要がある。	・「学力の定着・向上に係る状況シート」を作成し、各児童の課題を明確にし、全教職員で確認しながら取組を進め、課題の克服を図る。また、日々の授業において、音読やノートのまとめを大事にし、字じりの定着を図る。 ・算数科や理科については、単元が終わることに単元の復習ノートに取り組ませ、学力の定着を図る。国語科についても、読むこと・書くこと・筆点をしまったリント字認に取り組ませ、学力の定着を図っていく。 ・ICT支援員との連携を図りながら、学年の進捗段階に応じたドビング、Canvaの活用、思考を広げるエビングやノート法の活用など児童のスキルアップを継続して支援し、ICT活用の権限を広げられるように環境整備を図る。	3 1	・学期末テストの算数科が目標値の85%を下回っている。 ・よく児童を分析し、改善策に十分取り組まれている。 ・課題に対して自分の考えを表現できるうえで、常にアドバイスをしていて起承転結SWIFTに対応できる力をつけてほしい。	
		○ICT端末の活用を図る。 ・ICT活用の系統表の活用 ・児童が時間・場所・学習内容により自分で選び、活用できる機会を保障する。	・児童アンケート肯定的評価の割合(ICT活用) ・児童アンケート肯定的評価の割合(表現力)(協働性)	85% 90%	93.8% 94.8%	104.6% 105.3%	A	・ICTの活用については、93.8%の児童が肯定的に回答し、この学年も、「ICT活用の系統表」に基づいて指導することができた。児童が自分の課題に応じて自由にICT機器を活用することができるようになっている。	・表現力については、6項目のうち5項目において目標を達成できたが、理由や根拠を後でつけ加えることについては、肯定的な回答をした児童が87.5%であった。この結果から、話すことに對しては自信をもっているが、理由や根拠を明確にしながら話すことなどについて課題が残った。 ・アンケートで肯定的な回答をしている児童は、主体性(91.7%)・協働性(90%)であった。また、「他のステップ」の活用については、100%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・R80においては、91.7%の児童が自分の回答に自信をもつていていたが、理由や根拠を付けるといふ型では自信に付いているのが、めでてこなした振り返りではなく感想になっていた児童もある。	4	・自分の考えを書いて表すことは良いことだと思うのでR80の取組を進めていてほしい。 ・R80に関する達成値が大幅に向上了し、力を入れて取り組んだ成果が出ていると思われる。1年生の字がとてもきれいに丁寧に書かれているのも素晴らしい。 ・論理的思考力の分析、課題の把握をしっかりして、改善策に取り組んでほしい。	
豊かな心の育成	(2)論理的思考力・表現力並びに主体性・協働性を育てる。	○教育研究を推進する。 ・授業研究の充実(生活科・総合的な学習の時間における場面(つかみ・考る・学び合う・まとめる・R80)に応じたアシテーター力の向上)・R80による振り返りの充実(実践先行かつ、理由や根拠を付した具体的なまとめ・振り返り) ・少人数・複式学級指導の充実(複式学級指導の手引きはら学年のスティッフの活用・学習リーダーの育成・児童参観交換会の各学期実施)・紙とデジタルの有効活用(デジタル教科書・思考ツール等)	・児童アンケート肯定的評価の割合(表現力)(主体性)(協働性) ・結論先行、理由や根拠をつけて具体的に学習のまとめ・振り返りを書いている児童の割合 ・児童アンケート肯定的評価の割合(R80) ・紙とデジタルの有効活用(デジタル教科書・思考ツール等)	90% 80% 80%	95.9% 95.9% 91.7%	106.6% 114.6%	A	・表現力については、6項目のうち5項目において目標を達成できたが、理由や根拠を後でつけ加えることについては、肯定的な回答をした児童が87.5%であった。この結果から、話すことに對しては自信をもっているが、理由や根拠を明確にしながら話すことなどについて課題が残った。 ・アンケートで肯定的な回答をしている児童は、主体性(91.7%)・協働性(90%)であった。また、「他のステップ」の活用については、100%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・R80においては、91.7%の児童が自分の回答に自信をもつていていたが、理由や根拠を付けるといふ型では自信に付いているのが、めでてこなした振り返りではなく感想になっていた児童もある。	3 1	・自分の意見を書いて表すことは良いことだと思うのでR80の取組を進めていてほしい。 ・R80に関する達成値が大幅に向上了し、力を入れて取り組んだ成果が出ていると思われる。1年生の字がとてもきれいに丁寧に書かれているのも素晴らしい。 ・論理的思考力の分析、課題の把握をしっかりして、改善策に取り組んでほしい。		
		(1)自ら行動し、やりぬく意欲や自信を育てる。	○「木原チャレンジ」を継続する。 ・目標に向かって挑戦する場の設定(マラソン、縄跳び、暗唱、読書) ○特別活動を充実させる。 ・自律的に取り組む児童会活動の推進	・児童アンケート肯定的評価の割合(自主・自律)(意欲)(自信)	各90%	92.8% 93.8% 93.86%	自主・自律 102% 意欲 104% 自信 104%	A	・「木原チャレンジ」の継続遊びでは、自分の目標に設定した遊び(方針)できなかった児童がいたが、毎回日々の練習によって取り組む姿を見られた。 ・児童会が主役となって行うみんな遊びの活動を通して、上級生がリーダーシップを発揮し、自律的に活動することができた。	・木原チャレンジの目標の達成だけではなく、目標に向かって取り組んでもいる遊びを大切にし、適切な声かけをすることで、意欲や自信につなげていく。 ・引き続き、「上級生がリーダーシップを発揮して活動に取り組めるよう、事前に担当教員と打ち合わせを行っておく。	3 1	・取組の過程を大切にして、各児童への指導がでている。 ・個人の能力に応じた目標の設定をこれからも進めていってほしい。
豊かな心の育成	(2)他者と協働する態度を育て、郷土への愛情を深める。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科・総合的な学習の時間・ふれあい活動(とんど祭り・ふれあいコンサート)・学校文化(木原太鼓踊り)等の充実	・児童アンケート肯定的評価の割合(協働性)(郷土愛)	各90%	100% 100%	協働性 111% 郷土愛 111%	A	・児童全員が、木原町の好きなところについて、「あたらしい地域の方々」に熱愛している。また、地域との交流では「木原文化祭」「木原太鼓踊り」「キックベースボール」と「どんど祭り」を楽しむ深い回答があった。	・教師が積極的に「地域の行事」「地域の素敵などころ」などに目を向けて見せるうな声かけを行い、地域の良さに気付かせてい。 ・コミュニティスクールとしての取組を推進し、地域と協働した活動をさらに充実させることにより、地域の方や郷土への愛情を深める。	4	・木原太鼓踊りの児童の踊りは素晴らしい。また見えてみたいと思われるものになっていた。	
		○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科・総合的な学習の時間・ふれあい活動(とんど祭り・ふれあいコンサート)・学校文化(木原太鼓踊り)等の充実	・健康生活チャレンジの実施(感謝・マナー)	90%	感謝 95.9% マナー 92.3%	感謝 110% マナー 103%	A	・給食時間を利用した、ミニ保健指導の中で「いたたきます」「こうどうすま」の語を知り、動植物の命もいたたきたいという意識や、食事を尊重する心に広げた人々の感謝の気持ちを育て、マナーを身につけて食事をすることについて話した。そのことにより、自分で食べるだけの量を知り、残業がないことにより、次回も自分でよく食べようという意欲にならなかったよい姿勢で食べることは、食事のマナーの基本であり、身に付けられるよう繰り返し、指導していく。	・給食時間を利用しての保健指導の充実を図る。 ・食べ物のイメージ等を活用して、食べ物に興味をもたらす、学校で学んだことが、家庭の中でも話し合われ、健康的な食生活を実践できるよう取組を進める。	3 1	・給食時間を利用した指導はよい機会だと思う。 ・運動の楽しさ、体を動かす習慣を継続してほしい。	
健やかな体の育成	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○保健教育を推進する。 ・健康的な食習慣の定着に向けた食育指導の継続的・計画的な実施(健康生活チャレンジウォーク等)	・健康生活チャレンジウォークにおける達成度(感謝・マナー)	90%	感謝 95.9% マナー 92.3%	感謝 110% マナー 103%	A	・給食時間を利用した、ミニ保健指導の中で「いたたきます」「こうどうすま」の語を知り、動植物の命もいたたきたいという意識や、食事を尊重する心に広げた人々の感謝の気持ちを育て、マナーを身につけて食事をすることについて話した。そのことにより、自分で食べるだけの量を知り、残業がないことにより、次回も自分でよく食べようという意欲にならなかったよい姿勢で食べることは、食事のマナーの基本であり、身に付けられるよう繰り返し、指導していく。	・給食時間を利用しての保健指導の充実を図る。 ・食べ物のイメージ等を活用して、食べ物に興味をもたらす、学校で学んだことが、家庭の中でも話し合われ、健康的な食生活を実践できるよう取組を進める。	3 1	・早寝・早起き・朝ご飯を数回で具体的に取り組んでほしい。	
		(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	○体力つくりを推進する。 ・運動の楽しさを味わわせる体育科指導や日常活動の工夫(体育科授業導入での運動・児童会による「みんな遊び」等)・「木原チャレンジタイム」の継続(マラソン等)	・児童アンケート肯定的評価の割合(運動への意欲)	90%	99%	110%	A	・チャレンジタイムでは、児童が目標に向かって取り組む姿が見られた。休憩時間の「みんな遊び」の実習によって、運動の楽しさや、体を動かすことへの親しみをもたらせることができた。	・体育科の授業で、柔軟運動や筋力トレーニング、サークルを取り入れ、体力向上に努める。また、児童が運動に親しむことができるよう体育館や運動場の環境整備を行っていく。 ・全員が楽しく取り組めるチームの種類を増やすなどの工夫をして、児童が主役で「みんな遊び」を通して、運動に親しみをもたせる取組を継続する。	3 1	・運動が苦手は児童も全員とする「みんな遊び」は、体力アップを図れてよい取組だと思われる。 ・各目標値は、90%に設定されているが、その値が適切か検討する必要がある。
信頼される学校の形成	安心と信頼のある学校を創る。	(1)コミュニティ・スクールを推進し、地域と学校の連携・協働体制を構築する。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科・総合的な学習の時間・ふれあい活動(とんど祭り・ふれあいコンサート)・学校文化(木原太鼓踊り)等の充実	・地域・保護者アンケート肯定的評価の割合(地域との連携・協働)	90%	93%	103%	A	・生活科では夏野菜の植え付け、収穫を地域の方と共に作業をした。総合的な学習の時間には、みんな農家の方の話を聞いたり、地域の神社の歴史を調べたり、大島鯨の海藻調査を行ってたりして、ふるさと木原に対する愛着を深めることができた。 ・クラブ活動の時間に地域の方をゲストティーチャーに迎え、キックベースボールと絵手紙を楽しむことができた。	・生活科や総合的な学習の時間で学んだ内容を地域の方や地域以外の方に発信したり、ふるさと木原の魅力を広げよう活動を計画していく。 ・学校運営協議会での連携を密にし、地域と保護者、学校が一休として「みんな遊び」を楽しめる取組を進めていく。	3 1	・地域と保護者、学校が引き続き一体となり、取り組んでほしい。 ・これからも、報告・連絡・相談を密にしていきたい。 ・学校の課題を地域と共にして一緒に考えていくたい。
		(2)安心・安全な学校づくりを推進する。(不祥事ゼロ)	○業務改善を推進する。 ・計画的な(見直しのある)業務遂行 ・校務の効率化(デジタル化、無駄の軽減)	・「木原セーフティガード」目標値(110%)達成員の割合(7月・1月)	100%	100%	100%	A	・月・回のセーフティガードでの自己的実践の振り返りや不祥事防止校内委員会によるヒヤリハット事業の検討などにより、目標を達成することができます。 ・授業時間の調整をすることにより、校務分掌の仕事や授業準備に充てる時間を捻り出すことができた。 ・すぐれる「クロームブック等を活用し、校務の効率化をさらに推進していく。	・今度もセーフティガードを活用するとともに、不祥事防止委員会で気づきを出し合い、学校の課題を全体で共有し、安心・安全な学校づくりに努める。 ・すぐれる「クロームブック等を活用し、校務の効率化をさらに推進していく。	3 1	・「木原セーフティガード」の達成値は、単月での評価でないほうがいいのではないか。

【：自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (も少し) < 80 D: (できていない) < 60

【学校関係者評価 評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。